

島原半島フォーラムを振り返って

(一社)島原半島観光連盟専務
坂元英俊

まずは、今回のフォーラム開催にあたりご協力いただいた関係各位に、感謝申し上げます。

島原半島を囲む景色は、空と海の青と紅葉に囲まれ、秋の行楽シーズンたけなわでした。そのため地元の観光関係者はお祭りや行楽客の受け入れ対応に忙しく、フォーラムへの参加が少なかったのは残念でした。事前調整に不足のきらいもありました。とはいえ、フォーラムとそれに先立つGSTCトレーニングの5日間（11月1日～5日）、全国そして世界から多くの参加を得たほか、地元の高校生や大学生の参加を得ることができました。

「海に浮かぶ火の山の大地：島原半島」は、5日間を通して安定した快晴に恵まれました。雲仙温泉青雲荘で開かれたGSTCトレーニングでは、世界の持続可能な観光に向けた取り組みの紹介に始まり、未知の集落を歩く楽しさや素材ネットワークの必要性など参加者からの議論も活発で、熱のこもったものとなりました。



GSTCトレーニングの様子

また、夜の雲仙ロープウェイの紅葉と夜空の散策（特別企画：雲仙仁田峠プレミアムナイトの開催）にも参加をいただき、島原半島の内外の人の出会いを強く



雲仙仁田峠プレミアムナイトの事前解説の様子

印象づけられました。

3日目は、GSTCトレーニングのカリキュラムも兼ねたエクスカージョンが行われました。コースは2つ。1つは雲仙地獄、小浜温泉の町歩き、温泉熱の発電利用の見学などです。



地熱発電所の見学の様子

もう1つは酒蔵見学や、原城跡などユネスコ世界文化遺産登録予定地の見学、イルカウォッチングなどでした。

どちらのツアーにおいても、参加者に「島原半島で持続可能な観光と考えられる要素」や「この観光



イルカウォッチングの様子



観月会を開いたお寺の本堂で記念写真



振り返りと議論の様子



多比良の町歩き

素材はもっとこうしたほうがいい」などを考えていただき、将来の持続可能な観光に向けた議論を活発に行っていただきました。

フォーラムの前夜は、多比良地区のお寺の本堂で観月会が催され、海外からのフォーラム講演者の方々も参加されました。多比良の商店街の人たちが商品を持ち寄り、新作の試食や各店のこだわりが紹介され、和気あいの雰囲気での交流会が進行しました。

また翌朝、フォーラム開催前の時間に、海外の講演者の方たちに多比良の町歩きを楽しんでいただき、多比良が持続可能な観光になるための提言もいただきました。

2日間のフォーラムでは、長崎ウエスレヤン大学と地元の高校4校が会場内で環境への取り組みや研究などを発表するパネル展示をしてくださいました。フォーラム2日目の分科会にも高校生が参加し、テーマごとに積極的な議論が交わされたことが非常に印

象深く、他の参加者の関心も集めていました。

島原半島の未来を担う若い世代の真摯な姿に、心強い思いをし、励まされた人は多かったのではないのでしょうか。

フォーラムの締めくくりとなる全体会では、島原市、雲仙市、南島原市の3市長と、島原半島観光連盟会長も交えた宣言文が発表されました。

宣言文は、島原半島における今後の「持続可能な観光」に向けた意気込みが伝わる内容でした。宣言文に署名された3市には、これから島原半島で持続可能な観光の取り組みを進める責任が生まれたといえます。

またわれわれ島原半島観光連盟も、持続可能な観光の世界基準と島原半島で現在展開されている観光との差を埋めるべく、事業計画を立てるなど大きな役割も果たす重責もあると考えています。今回のフォーラム開催をひとつのスタート地点として、新たな地平へと向かっていきたいと思ひます。